

会派視察・研修報告書

会派名 新生自民

代表者名 葉狩 拓也

1 日 に ち	2025 年 7 月 1 日 (火)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	東京都墨田区 UDC すみだ
3 参 加 者	林 美行、葉狩 拓也、亀井 芳樹、獅子野 真人 以上 4 名
4 調査・研修の テーマ	大学のあるまちづくりについて
5 主な内容	大学誘致と UDC すみだを通じた、地域・大学・行政の連携について。
6 書簡、提言事項、課題等	【議員氏名】林美行 東京 23 区で唯一大学が無かった墨田区では、平成 20 年度から大学誘致を進め、墨田区初の大学として、令和 2 年 4 月に i U 情報経営イノベーション専門職大学が開学し、令和 3 年 4 月に千葉大学墨田サテライトキャンパスが開設した。 これらを活用して、墨田区は「大学のあるまちづくり」を本格的に推進するため、公民学連携のプラットフォーム設立に向け、令和 2 年度に準備室を立ち上げ、令和 3 年 4 月に UDC すみだが発立された。 【UDC すみだ設立準備室の構成は】 公・・・墨田区・墨田まちづくり公社 民・・・東武鉄道・UR 都市機構・東京東信用金庫・東京商工会議所墨田支部 学・・・千葉大学・i U 情報経営イノベーション専門職大学 <u>UDC すみだは、公民学が協働により運営する組織で、将来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメントのハード面、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面、双方のアプローチから、大学のあるまちづくりを進めていくことを目的とし、墨田区基本構想に基づき、10 の目標を設定している。</u>

6 所感、提言事項、課題等	①エリアマネジメント・・・公共空間の維持管理・活用、文化・芸術、緑 ②防災強靱化・・・木密地域の防火・耐震、路地尊の再評価、ゼロメートル地域 ③遊休資産の活用・・・空き家活用、学生居住、アート活動拠点、ベンチャー活動拠点 ④産業振興・・・ものづくり、観光、I T S 情報システム、スマートシティ ⑤健康づくり・・・歩きたくなるまちのデザイン ⑥市民科学・・・ものづくりスクール、コミュニティ育成、まちづくりスクール ⑦環境問題・・・環境活動の育成・発信、S D G s ⑧国際都市・・・地域国際化、文化・観光 ⑨都市空間の質の向上・・・水辺空間、歩行者・自転車ネットワーク、公共施設 マネジメント、景観形成 ⑩都市型交通手段・・・自転車、公共交通システム 【所感】 墨田の取り組みが計画的で、誘致することによるまちづくりへの効果を大きくするための合理的な支援体制があることに、とても共感しました。 普通の企業誘致というレベルではなく、まちづくりを支えるための基本的パーツとして大学誘致が考えられてきたことと、官民学の連携の中でUDC すみだが設立され、基本構想に基づき10の目標を掲げ、まちづくりの課題を解決して、より住みよい墨田づくりを、官民学の連携、区民参加のもと、あってほしい地方自治を進めようとしていることが、とてもうらやましいと感じました。 多治見市あるいは東濃西部において、岐阜大学と名古屋大学の連携協定を活用するなど、つくば市や北九州地区の地域振興の例にあるような、本筋ともいえる大学誘致を多治見市のビジョンに位置付け、それをもとに広域での新しい地場産業づくりが早く取り組まれるよう、一層働きかけを強くしなければとの思いを確認しました。また、より豊かに暮らせるまちを目指し、新しい価値を作り出していくこと、時間と財政力を上手に活用することの大切さを確認しました。
----------------------	---

	【議員氏名】 葉狩拓也 東京都墨田区を訪問し、「大学のあるまちづくり」および「UDC すみだ（アーバンデザインセンターすみだ）」の取り組みについて視察を行いました。 墨田区では、少子高齢化や地域経済の活力低下といった課題に対応するため、平成 24 年以降「大学のあるまちづくり」を重点施策として位置付け、大学キャンパスの区内誘致を積極的に推進してきました。これにより、現在では iU（情報経営イノベーション専門職大学）、千葉大学、文化学園大学など複数の大学が立地し、それぞれが地域と連携した教育・研究活動を展開しています。 大学の知的資源や学生の活動が地域に根付くよう、区は施設の貸与や空き校舎の活用だけでなく、地域・大学・行政をつなぐ仕組みづくりにも注力しています。その中核となっているのが「UDC すみだ」です。 UDC すみだは、区が出資する一般社団法人「すみだまちづくり公社」が担う公民連携のまちづくり拠点で、都市計画や地域づくりの専門人材が常駐し、大学・企業・市民を結ぶコーディネートや実証実験の支援、地域課題をテーマにした学生生活動の企画などを行っています。 こうした仕組みにより、大学側は実践的な教育機会を得られ、地域側は新たな視点と若い力を受け入れることで、相互にメリットのある関係構築が図られていることが特徴です。 現在、多治見市においても中京学院大学の誘致が進められていますが、この視察を通じて、誘致後の地域との関係構築や、大学と市民をつなぐ中間支援の重要性を強く実感しました。単なる施設整備にとどまらず、大学の教育活動が地域課題と接続することで、まち全体に好循環を生むことが可能になります。 今後、多治見市においても、大学との具体的な連携ビジョンの構築、中間支援機能の検討、そして学生がまちで学び・関わる仕組みづくりが求め
	【議員氏名】 亀井芳樹 大学のあるまちづくり（UDC すみだ）をテーマに、東京都墨田区にある「UDC すみだ（アーバンデザインセンターすみだ）」を見学してきました。 ここは、地域にある課題や魅力を、住民・専門家・行政が一緒になって考え、動き、まちを育てていく拠点で、いわば、「まちの実験室」のような場所です。

	たとえば、 「空き家や空き店舗が増えてさびしくなってきた」 「子どもたちの遊び場が足りない」 「観光客が素通りしてしまう」 「お店や工場が減って地域のにぎわいがなくなってきた」 など、そんな地域の声を拾い上げて、関係者が集まり、アイデアを出し合っています。 区役所の職員さん、地元の人、町工場の職人さん、大学の先生や学生さんなど、立場も年齢も違う人たちが、フラットに話し合える場が用意されています。 中でも印象的だったのは、千葉大学の学生や研究者の存在です。 千葉大学は、UDC すみだの立ち上げや運営にも関わっており、都市デザインやまちづくりの専門的な知見を地域に実装していく「学と実践の橋渡し役」を担っています。 学生たちはただ研究するだけでなく、地域の人と対話を重ね、実際のプロジェクトにも深く関わっています。まちの中に入り込み、行動しながら学ぶ姿勢が、地域に新たな刺激をもたらしていました。 そして、UDC すみだのもう一つの特徴は、話し合いで終わらせないことで、「まずは試してみる」「小さく始める」という考え方で、実験的なプロジェクトが次々と立ち上がっています。 たとえば、 ☑️ ほとんど使われていなかった川沿いの倉庫を、期間限定の「マーケット」として活用し、人を呼び込む ☑️ 商店街の空き店舗に若者やアーティストが入り、ちょっと変わったカフェや展示スペースに変える ☑️ 昔ながらの町工場とデザインの学生が協力して、新しい商品を開発する といった 100 個ほどの小さなプロジェクトがすでに動いており、それが地域に新しい空気と動きを生み出しています。 こうした積み重ねによって、「参加する人」が増え、まちにゆるやかな活気と変化が広がっていました。 行政が一方的に進めるのではなく、住民や民間が「主役」になれる仕組みがあること。 その中に、大学などの「学や知」を現場につなげる存在があること。 それが、UDC すみだからこそできるまちづくりのスタイルであり、最大の強みだと感じました。
--	--

7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	こうした取り組みを見て、私は改めて多治見市でも、同じような可能性があるのではないかと未来を感じました。 というのも、多治見市には中京学院大学が移転してきます。この機会に、大学と地域と行政が連携し、まちをともに考え、動かしていく土壌を育てていけるかどうかが、とても大切だと感じています。 「小さく始めて、みんなで動かす」まちづくりや「人と人、知と現場をつなぐ」仕組みづくりなど、UDC すみだで得た学びを、多治見のこれからに活かしていきたいと思います。 【議員氏名】獅子野 真人 UDCすみだは、公・民・学の連携によるまちづくりを推進する拠点として、墨田区・千葉大学・iU情報経営イノベーション専門職大学などが協働で運営している。視察では、大学のあるまちづくりを軸に、地域課題の解決や空き家活用、都市空間の質向上など多角的な取り組みが展開されている様子を確認した。特に、学生や地域住民が主体的に関わるワークショップやイベントを通じて、地域の賑わい創出と人材育成が図られている点が印象的であった。 また、木造密集地域における防災強化や環境活動の推進など、SDGsを意識した施策も展開されており、持続可能な都市づくりのモデルとして参考になった。墨田区では、大学誘致を契機に「大学のあるまちづくり」を本格的に推進しており、UDCすみだはその中核として、都市空間のデザインマネジメントや地域デザインプログラムなど、ハード・ソフト両面からのアプローチを実施している。 さらに、空き家の利活用や地域資源の再評価を通じて、地域の魅力向上と多様な人材の流入を促進している点も注目された。視察を通じて、地域課題に対する柔軟かつ実践的な対応、そして大学の知見を活かしたまちづくりの可能性を実感した。加えるのであれば、大学教授との連携は非常に重要である。 今後の地域連携や大学誘致の検討において、UDCすみだの運営体制と活動内容は大いに示唆を与えるものであり、持続可能な地域社会の形成に向けた重要なヒントとなった。
---------------------------------------	---

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。